石川県立美術館だより

BIJUTSUKAN DAYORI

第490号　令和6年8月1日発行

特別展 まるごと奈良博
－奈良国立博物館 至高の仏教美術コレクション－

《伽藍神立像》鎌倉時代（13世紀）　奈良国立博物館蔵
－「まるごと奈良博－奈良国立博物館 至高の仏教美術コレクション－」より－

重要文化財 周文の《四季山水図》と中国の絵画論
－尊經閣文庫の漢籍から－【前田育徳会尊經閣文庫分館】

九谷焼【古美術】

まるごと魅せます いしかわの工芸【近現代工芸】

優品選【近現代絵画・彫刻】

- 展覧会回顧　加賀藩前田家の名刀・脇田和と佐藤忠良
- 夏はみんなで美術館！
- ８月の行事予定
- 早朝・夜間開館のお知らせ
- 学芸室こぼれ話
- アラカルト　ただいま展示中

企画展（1F第7・8・9展示室、2F第2展示室）

特別展「まるごと奈良博－奈良国立博物館 至高の仏教美術コレクション－」

主催／「まるごと奈良博」展実行委員会（石川県、石川県立美術館、北國新聞社）　特別協力／奈良国立博物館　特別協賛／DMG森精機
後援／一般財団法人石川県芸術文化協会、石川県教育委員会、富山県教育委員会、福井県教育委員会、金沢市教育委員会、NHK金沢放送局、MRO北陸放送、テレビ金沢、HAB北陸朝日放送、石川テレビ放送、金沢ケーブル、エフエム石川、ラジオかなざわ・こまつ・ななお

7月6日（土）～ 8月25日（日）　前期：7月6日（土）～28日（日）／後期：7月31日（水）～8月25日（日）

7月6日（土）の開幕以来、連日多くのお客様にお越しいただいている本展も、いよいよ7月31日（水）より後期展示にはいります。今号では後期のみどころをお伝えしつつ、全会期を通して出陳される作品、前・後期いずれかのみ出陳される作品、前・後期で巻や場面を替える作品などを紹介します。

まず奈良博が所蔵する仏像彫刻の白眉、国宝《薬師如来坐像》は、もと若王子（にゃくおうじ）社の本地仏と伝わります。明治の神仏分離令により流転し、その後奈良博に収まりました。画像で見るとその迫力から大きな像と思われがちですが、実際には像高50㎝ほどの小像です。お見逃しなきように。なお本作を始め、人気の《出山釈迦如来立像》や《伽藍神立像》など仏像彫刻は、会期を通してご覧いただけます。

後期のみ展示される必見の国宝が《辟邪絵（へきじゃえ）》です。「邪を辟（さ）ける」の名の通り、様々な善神が鬼神を退治する様子をコミカルに描きます。もとは一巻だったものを、戦後に5幅の軸装に仕立て直しており、本展ではそのうち「天刑星」「梅檀乾闥婆」「鍾馗」の3幅を展示します。

工芸作品の代表は国宝《牛皮華鬘（ごひけまん）》です。京都の東寺伝来の品で原形を留める13点のうち4点を前期・後期に分けて展示します。華鬘とは貴人に花を捧げるインドの風習が変化したもので、厚手の牛皮を宝相華や迦陵頻伽（かりょうびんが）の文様に透かし切り、截金や暈繝（うんげん）など典雅な彩色を施してあります。

観覧料

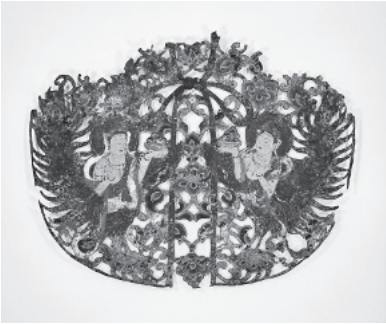
一般	1，500円（1，300円）
大学生	1，000円（800円）
高校生	800円（600円）
小中学生	500円（300円）

＊2階コレクション展観覧料を含む
＊（　）内は20名以上の団体料金
＊内灘町以北（能登）の小中学生は観覧無料
＊身体障がい者・精神障がい者保健福祉・療育手帳をお持ちの方、またはミライロIDをご提示の方および付き添いの方1名は観覧無料

関連イベント

後期も関連イベントが多く開催されます。ワークショップやトークショーなど、楽しいイベントが目白押しです。ぜひご参加ください。詳細は本誌行事欄、当館公式ウェブサイトでご確認ください。

国宝《薬師如来坐像》平安時代（9世紀）


国宝《牛皮華鬘》平安時代（11世紀）

国宝《辟邪絵》平安～鎌倉時代（12世紀）

※すべて奈良国立博物館蔵

前田育徳会尊經閣文庫分館

重要文化財 周文の《四季山水図》と中国の絵画論

－尊經閣文庫の漢籍から－

7月31日（水）～8月25日（日）　会期中無休

「花鳥」「人物」「山水」と、絵の画題はさまざまありますが、中国においてもっとも重要視された画題は、水墨で描かれた「山水」です。それは実景として描かれたというよりも、むしろ理想郷として描かれる光景で、人々はその空間に隠遁することを憧れとしました。その「理想郷としての山水」をいかに描くかについて、中国ではさまざまな「画論」の中で語られ続けてきました。今特集では、前田育徳会尊經閣文庫が所蔵する漢籍の中から、こうした絵画論を解説しながら、周文の《四季山水図》をはじめ育徳会を代表する中国絵画を紹介します。

唐の時代に記された王維の『山水論』には、「山水」を描くには、筆先にもっともその気持ちを込めなくてはならず、遠い樹木には枝はなく、遠い山には石はなく、隠隠とした眉のようであると記されています。山は樹木を衣とし、樹木は山の骨となる。樹木は繁りすぎてはいけない。山の美しさ、樹木の精神を現すべきとされ、これをよく描いたものが「優れた山水」というのです。

周文の《四季山水図》は、中国の宗元画の影響を受けて、遠景には高くそびえる険しい山肌を、近景には樹木の生えた低い岩肌を描きます。左隻の左側に描かれた冬へと向かう景色の移ろいが、叙情的に描かれています。

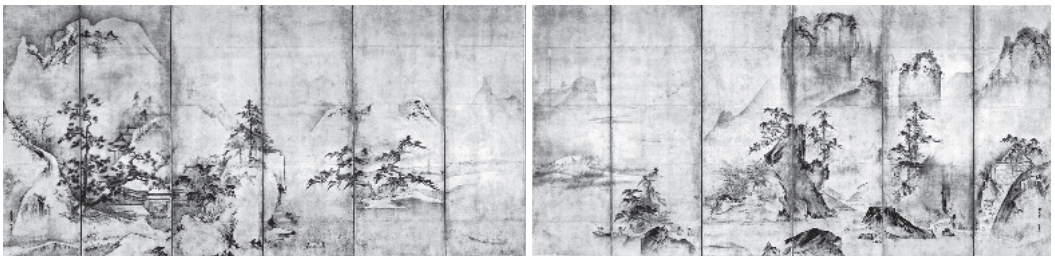
周文は著名ながらも真筆と確認できる作品は少なく、本図は貴重な作品です。右隻の右下、左隻の左下には「周文筆　探幽斎記」と、狩野探幽による極めが記されています。

学芸員の眼

「漢籍」とは、中国で出版された書籍のことです。紙を生み、古くから木版による印刷技術が発達した中国では、宋代以降、さまざまな書物が出版されました。

加賀藩では、5代藩主前田綱紀に仕えた書物奉行がその命を受け、各地に良書を求めました。古文書や古典籍のほか、原本の書写、公家や寺社が手放そうとした貴重な書物の収集に努め、尊經閣蔵書となりました。うち漢籍については、木下順庵の助言を得て、京都の「唐本屋」から購入した記録が残っています。

綱紀は、特に明律（明の洪武帝が編纂した刑法）に関心があったようで、さらに原本を求めようと、長崎奉行や長崎の書物屋まで問い合わせることもありました。綱紀の探求心がうかがえるエピソードです。



重要文化財　周文《四季山水図》

古美術（第6展示室）

九谷焼

7月31日（水）～8月25日（日）　会期中無休

今回は九谷焼の歴史を改めてふりかえってみたいと思います。文化で江戸幕府に挑んだ加賀藩3代藩主・前田利常は、1630年代後半頃から陶器ではなく、より硬質の磁器に絵を描く色絵磁器が、イエズス会の主導により九州で試みられていたことに高い関心を持ちました。1637年に有田から800人以上の日本人陶工が追放されたことを機に、利常は彼らの技術移転を図り、加賀国江沼郡九谷村（現在の加賀市山中温泉九谷町）での鉱山開発と平行して日本・東洋の画題に精通した画家や、セミナリオで西洋絵画を学んだ画家、さらには野々村仁清周辺の陶工なども参画させて制作体制を構築しました。

こうして1640年代には、今日「古九谷」と呼ばれる最初の九谷焼が誕生しました。古九谷の特徴は、高度な絵画的表現と大胆かつ斬新な意匠構成にあるということができます。このような比類ない表現世界の一部には、幕府が禁止したキリスト教を深意としているものもあります。そこには、高度な精神的含蓄をもって、対幕府の姿勢をさらに先鋭化する意図があったと考えられます。

古九谷は1650年代半ばに、利常の三男で加賀藩の支藩、大聖寺藩の初代藩主となった前田利治によって量産化が図られましたが、1700年頃には大規模な生産は終了したと考えられます。その約百年後、加賀藩や大聖寺藩内で古九谷を復活させる機運が高まり、若杉、吉田屋、宮本屋などの再興九谷諸窯が誕生しました。

《色絵万年青図平鉢》吉田屋窯

近現代工芸（第5展示室）

まるごと魅せます いしかわの工芸

7月31日（水）～8月25日（日）　会期中無休

第5展示室では特集「まるごと魅せます いしかわの工芸」をお届けしています。通期で展示している松田権六《蓬莱之棚》は、7月6日（土）～28日（日）は棚の扉を開け三面に渡る鳴鶴図をつなげて、附属の硯箱は蓋の表をご覧いただきました。7月31日（水）～8月25日（日）は棚の扉を閉めて、硯箱の蓋は裏返し、硯箱・色紙箱に描かれた短歌を味わっていただけるよう展示します。この機会に二期続けてお楽しみください。

このほか後期に久しぶりの展示となる木村雨山《友禅游魚模様振袖》。芙蓉や藤などが配置され、流水の中を泳ぐ魚の姿が表現されています。植物の静けさや華やかさ、水や魚の動くさま、さらに目を引く配色。糸目糊やぼかしなどの表現が印象的な作品です。また木村雨山の弟子である金丸水明の作品《盛夏果実》。金沢市近郊のりんご畑を取材し、樹下から見上げた風景を題材としています。張りのある本麻の単衣振袖で、内側に白い綿の襦袢を縫い付けてあり、地が透け過ぎず彩色がすっきりと映えてみえます。

今回作品とともに並べる情報は最低限に抑え、鑑賞のヒントとして展示室入口に「わくわくガイド」を準備しました。ガイドを参照しながら、子どもから大人まで幅広く作品鑑賞を楽しんでいただきたく思います。

木村雨山《友禅游魚模様振袖》

近現代絵画・彫刻（第4・6展示室）

優品選

7月31日（水）～8月25日（日）　会期中無休

暑さも増し、いよいよ夏本番となってきました。

第6展示室は、先月に引き続きガラスケース内が古美術部門の展示となり、日本画は壁面のみの展示となります。上田珪草《水炎》は、奈良薬師寺東塔の相輪の装飾部分をモチーフに描かれています。「水炎」は火災除けの意味を持ちますが、よく見るとそこを彩る天女が舞い降りてきている不思議な作品です。特別展に漂う奈良の典雅な香りと合わせてご覧ください。

第4展示室では、油彩画、彫刻を展示します。油彩画分野では、南政善《バリ島の踊り》をご紹介します。西洋の油絵のなかに東洋的な要素を取り入れたいと、南は戦後から晩年まで東南アジア女性像を主題としました。昭和49年のインドネシア訪問中にデッサンや小品を描きため、翌々年に没するまでバリ島の踊り子を題材とした一連の作品を発表します。舞い踊る女性の一瞬を鮮やかに切り取った、エキゾシズム漂う濃密な色彩をお楽しみください。

そして彫刻分野では、動物彫刻を中心にご紹介。長谷川八十《サルと魚》は魚を両手でつかむサルの姿を捉えた作品です。荒々しく凸凹とした表面の質感や躍動感のある姿を表現した動物彫刻は、作者の特徴の一つであり、本作にもその特徴がよく表れています。中腰で両手をいっぱいに伸ばすサルのポーズとユーモラスな表情には、どこか可笑しみと親しみが感じられます。

南政善《バリ島の踊り》

展覧会回顧
前田育徳会尊經閣文庫分館
特別陳列　加賀藩前田家の名刀
ー天下五剣の名宝「大典太光世」が石川にー

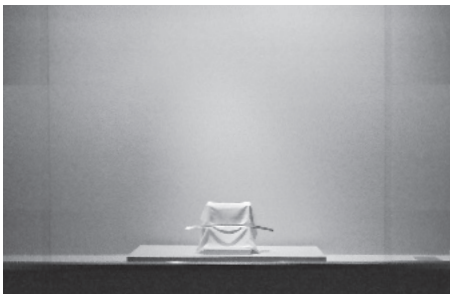
4月21日（日）～5月26日（日）　会期中無休

本展は、元日の能登半島地震からの復興機運を盛り上げる意味もこめて、北陸新幹線敦賀延伸開業にともなう集客の重点事業の一つとして開催されました。国宝《太刀　銘 光世作（名物大典太）》、国宝《刀　無銘義弘（名物富田江）》、重要文化財《短刀　銘 吉光（名物前田藤四郎）》が一堂に展示されるのは、旧・石川県美術館以来57年ぶりでした。

展示にあたっては、前田家において神格化された「大典太」にふさわしい厳かな空間を現出させることを第一に考えました。そこで相対する壁面展示ケースに三口のみを交互に配置し、対面の映り込みを最小限にするため照明を限定しました。また、大規模な地震も想定して重りを仕込んだ刀掛を免震台の上に設置し、太刀も刃を上に向けて展示しました。

幸い会期中に大きな地震はなく、この展示方法も好評をいただきました。今回は『刀剣乱舞　ONLINE』とのコラボとして、「刀剣男士」の等身大パネル（会期中に一体増えました）を古美術部門の入口に設置したほか、プレミアムナイトツアーやオリジナルスイーツの販売などの関連イベントも実施し、話題を呼びました。「刀剣乱舞」が、特に若い女性層を中心に日本刀への関心を喚起する契機となったことは確かですが、今回の展示を通してその関心は決して一過性ではなく、深く、謙虚であることがわかりました。

最後に、本展の趣旨にご賛同いただいた（公財）前田育徳会に改めて深く感謝申し上げます。



展覧会回顧

脇田和と佐藤忠良－子どもへのまなざし－

3月26日（火）～5月26日（日）

石川ゆかりの洋画家・脇田和と脇田と交流の深い彫刻家・佐藤忠良を交え、両作家の子どもへのまなざしをテーマに開催した展覧会。絵画と彫刻の異なる分野ながら、「作家が生前に2人で空間を作ったのではないかと思えるほどかみ合っていた」との感想もいただき、子どもや孫の成長を見守る視線や家族の温かみが響き合う展示室となりました。

また、ロングセラー絵本である佐藤の『おおきなかぶ』、脇田の『おだんごぱん』の原画も紹介し、併せて開催した石川県立図書館の司書による絵本の読み聞かせのイベントでは、小さい時に絵本を読んでもらった方や読んであげる立場の方など、それぞれの懐かしい思い出に重ね合わせて幅広い年齢層に楽しんでいただけたようでした。この絵本原画展示によって2人の作家が作画を担当していたことをはじめて知った方も多く、展覧会担当者としては、2人の新たな魅力をご紹介できたことを嬉しく思い、また、本展示を通して、心に残る絵本の影響力の大きさを再認識しました。

今の時代はインターネットの普及で仮想現実という世界さえ日常化しています。2人が生きた昭和を中心とした時代は、まだまだ人とのつながりを大切にした確かな現実の時代でした。2人の作品やその交流の様子を「嘘いつわりのない作品」「心温まる」「しみじみ味わいよし」と昭和のぬくもりのようなものを感じた鑑賞者の感想からも、今の時代に開催した意義を感じた展覧会となりました。

夏はみんなで美術館！

数年前までコレクション展示室では「夏休み 親子で楽しむ美術館」と題して、夏季に親子向け特集展示を開催しておりましたが、現在は親子という冠を「みんなで楽しむ」に変更し、夏休みに美術館へ訪れる皆様に向けて、普段の展示に「ひとりでも楽しく 家族でも楽しく こどもでもたのしく 作品鑑賞」というテーマを加えて企画しております。このたび2階第5展示室の特集展示「まるごと魅せます いしかわの工芸」では、「みんなで楽しむ」をコンセプトに、「わくわくガイド」を準備してお待ちしております。このほか当館コレクションをお子さまにお楽しみいただくため、左記のプログラムを常時ご用意しています。2階コレクション展受付でお申し付けください。（いずれも無料配布、2階コレクション展示室は高校生以下無料）

■ビンゴでびじゅつかん【目安：小学生以下】

ビンゴカードに描かれたものを展示室で見つけて、たくさん穴をあけてみよう。

■キッズガイド「美術館をたんけん！」【目安：小・中学生】

「みるみるくん」たちキャラクターが美術館の楽しみ方を案内する展示室マップ。作品をみて、想像したことを書きこんでみましょう。

1階特別展「まるごと奈良博―奈良国立博物館 至高の仏教美術コレクション―」では、一般・親子向けの行事が目白押しです。夏はみんなで美術館！皆様のご来館をお待ちしております。

「ビンゴでびじゅつかん」カード

8月の行事予定

■ワークショップ
「絵巻物(辟邪絵)をみて！きいて！さわろう！」
日時　8月3日(土)　13：30～16：00の間で随時
　　所要時間約30分
講師　奈良国立博物館研究員
会場　石川県立美術館講義室
対象　どなたでも
参加無料、申込不要

■教職員プログラム
日時　8月9日(金)　14：00～16：30
会場　石川県立美術館講義室等
定員　30名程度
対象　石川県内小・中・高・特別支援学校の教職員
参加無料、要申込

■0才からのファミリー鑑賞会
日時　8月31日(土)　15：00～16：00
　　9月 1日(日)　①10：00～11：00
　　②13：30～14：30
会場　石川県立美術館コレクション展示室
定員　各回5組20名程度　先着順
対象　0才～小学生までのお子さんとその家族
参加費　高校生以下無料　ご家族内大人2人まで無料
※申込受付は終了いたしました。

■親子向けわくわくトーク
「『ほっとけ』んよ！奈良博のお宝！」
日時　①8月 4日(日)　13：30～14：15
　　②8月 4日(日)　15：00～15：45
　　③8月18日(日)　13：30～14：15
　　④8月18日(日)　15：00～15：45
講師　①・②奈良国立博物館研究員
　　③・④石川県立美術館学芸員
会場　石川県立美術館ホール
定員　各回200名
対象　どなたでも
入場無料、申込不要、先着順
※確実にお聞きになりたい方にはお電話にて予約を受け付けます。
石川県立美術館　076-231-7580

■笑い飯の楽しい仏教美術トークショー
日時　8月11日(日・祝)　13：30～15：00
会場　石川県立美術館ホール
定員　200名程度
対象　どなたでも
参加費　無料(要展覧会チケット)、要申込
※申込受付は終了いたしました。

早朝・夜間開館のお知らせ

特別展「まるごと奈良博」の開催にあわせて、今月は左記の期間に開館時間を延長します。館内カフェ「ル ミュゼ ドゥ アッシュ KANAZAWA」では特別に早朝開館日限定のメニューをご用意！たくさんのご来館をお待ちしております。

■早朝開館(8時30分より)
8月3日(土)～8月18日(日)の土・日・祝日

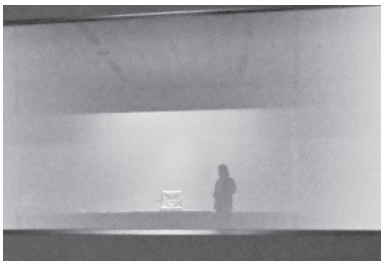
■夜間開館(19時まで、展示室への入室は18時30分まで)
8月2日(金)～8月17日(土)の金・土・祝日

※通常開館時間　9時30分～18時

学芸室こぼれ話

村瀬　博春(文化財保存修復工房 担当課長)「発心記」

旧赤羽刀が国から譲与されて、古刀を扱う機会が増えました。定期的な展示や手入れを通して、刀剣は尊崇の念をもって接すべき霊的な存在であることがわかりました。当館で刀剣に携わる者として、53年前の重大事件にも深く思いを致してきたつもりでしたが、自身に超常現象が起こって、ようやく刀剣の本質を正しく畏れることができたと思います。以来、刀剣の取り扱いは平常心や不動心を鍛える道場ともなりました。こうした経験があって、今回「大典太」を展示する機会をいただいたことは無上の光栄であり、前田家による文化の神髄に一歩でも近づきたいと改めて発心した次第です。



アラカルト ただいま展示中

à la carte No.79

《赤絵弾琴図鉢》宮本屋窯 あかえだんきんずはち　みやもとやがま

口径25.2　底径12.1　高13.4(cm)
江戸19世紀

吉田屋窯の支配人だった宮本屋宇右衛門は、吉田屋窯が閉じた翌年の1832年に、若杉窯の陶工木越八兵衛を素地担当に、絵付には飯田屋八郎右衛門をそれぞれ主工として招き、吉田屋窯の様式を一部継承しつつ、それとは一線を画する作風の宮本屋窯を立ち上げました。まず青手に関しては独自の古九谷解釈を示し、素地は、吉田屋窯よりも白味の強いものとしました。近年発見された大聖寺藩最後の藩主・前田利鬯(としか)の書状には、この宮本屋窯の土質が古九谷と同じだと述べられていることも注目されます。そして何よりも絵付は、大聖寺の染物に絵付する職人だった飯田屋八郎右衛門が持てる技量を最大限に発揮し、民山窯の赤絵細描の技法をさらに進化させた独自の様式を完成させました。

八郎右衛門は、越前気比神社に蔵されていた画集『方氏墨譜』(明の方于魯著、1588年刊)を閲覧する機会を得、その高尚な題材に強く啓発されました。その成果は、門下の竹内吟秋が伝えた『八郎墨譜』を通して知ることができます。中国や日本の伝統的な図様や文様に習熟し、細密繊巧を極めて意匠を取り合わせる手法は、八郎右衛門の深い人文的素養を示しています。

側面に「八龍之駿」、見込に中国の文人の教養である「琴棋書画」のうち「琴」を描いた本作も、そうした作例の一つです。硬質の素地を使用し、絵付には赤の他に緑、青、黄、紫が使われるなど、古九谷の五彩手を強く意識しています。

第6展示室
特集「九谷焼」で展示中

次回の展覧会

令和6年8月31日(土)
～9月29日(日)
会期中無休

前田育徳会尊經閣文庫分館	第２展示室
茶道具と名物裂	茶道美術名品展

第３展示室	第4・6展示室	第５展示室	企画展示室
金沢美大草創の三羽烏－鴨居玲と円地信二・村田省蔵－【絵画】	優品選【近現代絵画・彫刻】	いきもの発見！	生誕130年 武井武雄展～幻想の世界へようこそ～9月7日(土)～10月6日(日)

ご利用案内

コレクション展観覧料
一　般　370円(290円)
大学生　290円(230円)
高校生以下　無料
※(　　)内は団体料金
8月5日は第1月曜により
コレクション展示室無料の日

開館時間
午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間
午前10:00～午後6:00

8月の休館日は
26日(月)～29日(木)

石川県立美術館だより
第490号(毎月発行)
2024年8月1日発行

〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL https://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/

石川県立美術館は電源立地地域対策交付金を活用して運営しています。